

学位授与番号：甲 1050 号

氏 名：吉田 秀平

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 29 年 12 月 13 日

学位論文名：

**Validity and reliability of the Patient Centred Assessment Method for patient complexity and relationship with hospital length of stay: a prospective cohort study.**

（患者複雑性評価尺度である Patient Centred Assessment Method の信頼性・妥当性検証と入院日数に関する前向きコホート研究）

学位論文審査委員長：教授 武田聡

学位論文審査委員：教授 岩楯公晴 教授 大野岩男

# 論文要旨

氏名	吉田 秀平	指導教授名	松島 雅人
----	-------	-------	-------

## 主論文

Validity and reliability of the Patient Centred Assessment Method for patient complexity and relationship with hospital length of stay: a prospective cohort study (患者複雑性評価尺度である Patient Centred Assessment Method の信頼性・妥当性検証と入院日数に関する前向きコホート研究)

Shuhei Yoshida, Masato Matsushima, Hidetaka Wakabayashi, Rieko Mutai, Shinichi Murayama, Tetsuro Hayashi, Hiroko Ichikawa, Yuko Nakano, Takamasa Watanabe, Yasuki Fujinuma

誌名: BMJ Open 出版年 (西暦): 2017 年 Volume 7, Issue 5

## 要旨

【目的】生物心理社会的観点から患者の複雑性を評価する尺度がいくつか開発されてきた。これらの評価尺度から得られた結果と入院日数の間の関係が検証されてきたが、多くの指標は複雑であり簡便ではない。Patient Centered Assessment Method (以下 PCAM) は実用的な使用にあたっての候補である。本研究の目的は、PCAM の妥当性・信頼性を検討し、PCAM の得点と入院日数の関連を日本の地域二次医療機関病院で検証することである。

【研究デザイン】前向きコホート研究

【対象】王子生協病院急性期病棟に 2014 年 7 月から同年 9 月までに入院した患者 201 人

【主たる要因】入院段階での PCAM 総得点 【主たるアウトカム】入院日数

【結果】201 人の患者 (男性/女性=98 人/103 人、平均年齢=77.4±11.9(SD)歳) において、PCAM 総得点は平均 25±7.3(SD)点、入院日数は平均 34.1±40.9(SD)日だった。構成概念妥当性の検証のために探索的因子分析を用い、PCAM は medicine-oriented complexity と patient-oriented complexity から成り、明らかに 2 因子構成であった。基準関連妥当性検証の為にを行った Spearman の順位相関係数は、PCAM と INTERMED において 0.90 だった。信頼性確認の為に評価した Cronbach's alpha は 0.85 だった。Negative binomial regression を行い、年齢、性別、Mini Nutritional Assessment Short-Form、Charlson Comorbidity Index、血清ナトリウム濃度、内服薬剤数、生活保護受給の有無で調整した後も、PCAM 総得点は入院日数の、統計学的に有意な予測変数であった(p<0.001)。他のモデルでは、入院日数の予測変数として PCAM の各因子がそれぞれ独立して有意となった(medicine-oriented complexity: p=0.001, patient-oriented complexity: p=0.014)。

【結論】PCAM は妥当性と信頼性のある患者複雑性尺度であり、PCAM の得点は入院日数と有意に関連していた。

## 学位論文審査結果の要旨

吉田秀平氏の学位審査論文は主論文1編で、論文のタイトルは「Validity and reliability of the Patient Centered Assessment Method for patient complexity and relationship with hospital length of stay : a prospective cohort study」で2017年のBMJ Open (IMPACT FACTOR 2.369)に発表されました。Thesisのタイトルは、「患者複雑性評価尺度である Patient Centered Assessment Method の信頼性・妥当性検証と入院日数に関する前向きコホート研究」です。病院への入院期間を短縮することは、ケアの質を向上させ、医療費削減にも貢献する可能性があります。2015年の統計によると日本の平均入院日数は17.2日と他国に比較して長いのが現状です。入院日数に関連するさまざまな要因があり、INTERMED や OCCAM 等の指標が報告されていますが、項目数が多く判断が煩雑です。そこで開発されたのが Patient Centered Assessment Method です。

Patient Centered Assessment Method は12項目の質問事項からなり、今回の研究では王子生協病院急性期病棟に入院した201名の患者を対象に、入院段階でのPatient Centered Assessment Methodの点数と、入院日数についての相関性について検討し、Patient Centered Assessment Method が妥当性・信頼性のある患者複雑性尺度であることを結論付けています。

平成29年11月13日に大野岩男、岩楯公晴、両審査委員、および松島指導委員長、ご出席のもと、公開学位審査を開催し吉田氏による研究概要の発表に続いて口頭審査を実施しました。

口頭発表後、

具体的にどのように役立っているのか？

社会的処方とは何か？認知症が社会的要因なのはなぜか？

血清ナトリウム値のみを取り上げているのはなぜか？

職種による評価の違いで再現性に問題はないのか？

対象とした病院によるバイアスはないのか？

ICについては適切に取られているのか？

等の多くの質問が出され、吉田氏は適切に返答をされました。

また、

質問: Patient Centered Assessment Methodの説明がない

回答: 著作権の問題で提示ができないが、現在日本語化した論文の発表を準備している

とのお答えがありました。

口頭審査後に、大野、岩楯 両教授と慎重に審議し、Patient Centered Assessment Methodの患者複雑性評価での有効性を明らかにした論文で、学位を授与するに十分な価値がある、と判断いたしました。

審査後に、タイトルと、内容の一部の文言の修正を指示したが、それについて適切に修正されています。